

## 「黄金為地」④

本願寺派布教使・行信教校校長 天岸淨圓先生

それともう1点ありますのは、私たちは人間の作り上げた決まりごとで、生まれて死ぬって言います。言っていますね。

死ぬということを、実は阿弥陀<sup>あみだ</sup>さまやお釈迦<sup>しゃか</sup>さま、仏さまたちは、こういう心を開いてゆくこと、それをお浄土<sup>じょうど</sup>に生まれると言われました。

要するに、私たちが死ぬと言っている事柄は、私たちが死ぬと言っている「もの」であり、それが実は仏さまに成り、お浄土に生まれるということなのです。浄土に生まれるということはどういうことですかって言ったら、こういうものの受け止め方の心が開かれるということですねん。

だからみなさんもうちょっと辛抱しときなはれ。これからきちっと意識しながら『阿弥陀<sup>あみだ</sup>経<sup>きょう</sup>』を読まれたら良いです。どうなるかと言ったら、「あ、なるほどこれが本当のものの見方であり、受け止め方であり、間違いなく私はやがてこういうものの受け止め方の出来る身とならせていただく」。

この土地は1坪なんぼでよく儲かる土地か、人の通りが無くて儲からん土地か……土地関係ないやんな。地面は地面やんか。この土地は白いから良い、黒いからつまらん。黒いから良い、白いからつまらんじゃなく、色が何であっても全てが金であるような土地。だから阿弥陀さまは「私の国、お浄土に生まれたものはみんな金です」と仰いました。おもしろいで。みんな金やったら金の値打ちおまへんねん。みんなこれ金になってみ。どっちがうめへったくれもあれへんやんか。

それは何かと言ったら、みんなひとつひとつ、ひとつひとつが全部そのまま金でんねん。それを上手に綺麗に言っているのが「青色青光<sup>しょうしきしょうこう</sup> 黄色黄光<sup>おうしきおうこう</sup> 赤色赤光<sup>しゃくしきしゃっこう</sup> 白色白光<sup>びやくしきびやくこう</sup>」と、お浄土の蓮の花を説かれていますね。

だから、白い蓮が500円、赤い花は800円、青い蓮は1000円、黄色の蓮は1500円と値段が付くわけではないですね。みんな同じ価値、色が違ってみんな同じ価値、そんな有りようを「悉皆金色(みな悉く金色である)」と言葉で、お経の阿弥陀さまは願っていらっしゃいます。

花びらの形が、香りの良し悪しが、ものの使い勝手が……そんなものを全部ひっくるめて、そこにあるひとつひとつが限りない輝きを持って、かけがえのないのちなり存在感を持っているように「なる」のではなく、私の心がそう開けてゆくことなのです。

今お互いさまに、だいが心が閉じていますので、その心がやがて開かれてゆくことを浄土に生まれると仏さまは教えてくださいました。こういうことが、往生とかお浄土に生まれるということの本来の意味だったわけです。

今回のお話しはここまでにして、『阿弥陀経』のたった4文字ですけれども、全てのことに通じてこういうふうなお味わいをさせていただくことが出来ると思いますので、お話しをさせていただきました。ご縁を結ばせていただきありがとうございました。

2020年7月1日「正宣寺真宗特別法座」より

YouTube「浄土真宗本願寺派 光寿山 正宣寺」チャンネルにて配信中